

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	国語科、自立活動		
タイトル	安全・安心！おしゃべりパネル		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	児童は補聴器を使用しているが、マスクを着用しながらの発音練習や会話練習は、発声の確認がしにくく、話し手の表情や口元を見ることができないため、活動が困難である。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	感染防止をしながら、マスクを外し、安心して会話や発音練習ができる。相手の表情や口元の動きを見ながら取り組むことができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	パネルによって物理的に距離をとりつつ、唾液の飛沫を少なくすることができる。大きな声で、対面して練習に取り組むことができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・透明プラスチックのパネルを画用紙サイズの木製の額縁（どちらも100均などで売られているもの）にはめ込み、机に置いて使用できるように、自立可能な様式に作製する。
- ・より良いコミュニケーションについて体験を通して考えさせる。
パネルに布をかぶせ、対面して会話をする。パネルが透明の場合とそうでない場合において、どのように違いがあるかを実感する。表情や口元の動きが様々な情報を与えることに気づかせ、その情報を受け取れるようにすることが、より良いコミュニケーションには重要であることに気づかせる。
- ・お互いに対面して、発声や発音の確認をする。（口元をしっかりと見る。）
- ・表情をよく見ながら会話を楽しむ。（相手の気持ちを想像する。）



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面		
タイトル	自作パーテーションの活用による個別学習の充実		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	・個別学習では対面での授業形態をとり、口の動きから言葉を読み取る。 ・マスクの着用は口元が見えず、語彙が習得できない。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	・ウィルス飛沫防止、感染防止を図る。 ・相手の顔、口元を見せるため難聴児のきこえを保障する。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	・パーテーション設置によって、教師と難聴児との間に物理的に距離をとることができるとともに、フェイスシールドも合わせて使用し、飛沫防止・感染防止に努める。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・アクリル板（1mm程度）の両端を2本の角材ではさみ、ねじで止める。それを倒れないように板の上に立て、L字アングルで板にしっかり固定する。
- ・向かい合った2つの机の間に置き、息が直接かかることを防ぐことで飛沫感染を防ぐ。
- ・難聴児が、難聴学級の個別授業を安心して受けることができるようにパーテーションを使用したうえで、フェイスシールドや口元が見える透明マスクも着用する。



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面 日常生活		
タイトル	シールド付き歩行器		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	下肢に麻痺があり、移動にはバギーやSRC(サドル付き歩行器)等を使用している。 マスクや帽子など長時間身に着けることが難しい。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	視界がクリアなため、周りの確認をしながら歩行することができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	シールドによって、物理的に距離をとることができる。 飛沫が拡大するのを防ぐことができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ラミネートフィルムを使用し、縦は交流学級の児童と会話をする場面を想定し、交流学級の児童の口元が隠れるぐらい、横は前180度を覆えるように作製した。
園芸用の支柱とラミネートフィルムを透明のテープで張る。支柱をSRCの正面、左側、右側にスズランテープで固定する（今回は、サドルの色と合わせるため、園芸用支柱にカラービニールテープを巻いている。）。教師が歩行器の正面から、歩行のサポートをする場合があるため、10cmほど天板から高い位置でラミネートフィルムを固定している。
- ・校内での歩行訓練時や休み時間等児童が移動する際に使用する。

